

## ■小児科

### 1. 概要と2019年度目標及び方針

当小児科は、千葉県南部の基幹小児科として、24時間当直体制で小児の高度・3次救急医療を行なっている。小児病棟は24病床で稼働している。重症管理室を併設し、小児科全般の疾患に対応するとともに、外科領域の入院患児の全身管理にも携わっている。日本小児科学会、ならびに日本小児神経学会の研修認定施設である。

2019年度の目標としては、

#### ① 小児科診療の充実

小児科診療の充実のため小児科スタッフ、後期研修医の獲得に努める。そのうえで外来診療、入院診療、救急診療の質的維持を図る。また、入院診療をチーム制で行い診療・教育効果を高める。より、後期研修医への教育を強化する。

#### ② 医療安全に対する取り組み強化

高リスク児の認識を共有するため、スタッフによる勉強会ならびに症例ごとのカンファランスを継続する。小児科病棟において急変時シミュレーションを行い、医療安全体制の見直しを、定期的に行う。シミュレーションを通じて、他職種間の連携を強化する。

#### ③ 小児科臨床教育の充実

日本小児科学会、日本小児科神経学会認定臨床研修病院として若手研修医の指導を充実させる。特に屋根瓦式での若手スタッフ、シニア、ジュニアの教育体制を確立する。院外講師による講演会を開催し教育の充実に努める。

#### ④ 小児臨床研究の充実

初期・後期研修医による学会発表、論文発表を励行する。

#### ⑤ 地域・行政との連携。地域・行政との連携により、院内診療のみならず、在宅医療・検診・健康講話などを通し、地域の保健・療育・教育活動に積極的に参加していく。

#### ⑥ 静岡県立こども病院、神奈川県立こども医療センターの2つの連携施設に研修医を派遣し、より充実した研修を行う。

安房地域医療センター、亀田ファミリークリニックとの連携。安房地域医療センターの小児科診療（外来）を充実させる。亀田ファミリークリニックとの連携を強化させる。

#### ⑦ 女性医師へのサポート。子育て支援のため、診療・当直体制をフレキシブルに変更する。

#### ⑧ 発達障害や育児困難な症例の増加に対応可能となるように、外来診療を行う。

#### ⑨ 小児科セミナーを開催し、広報活動を強化し、後期研修医の増員につとめる。

### 2. 2018年度評価

① 小児科診療の充実

後期研修医は、1名が入職したが、3名が卒業した。3名の卒業生のうち、2名が小児科スタッフとして入職した。例年通りの外来、入院患者の経験を得た。週1回以上の、スタッフによる講義が定着した。入院患者に対しては、2チーム制をとり、屋根瓦式の教育体制が継続できた。

② 医療安全に対する取り組み強化

小児科病棟内で、急変時シミュレーションを複数回（3回以上）行った。医師看護師のカンファレンスを月2回行い、病棟患者の情報共有を行った。

③ 小児科臨床教育の充実

臨床教育の場として以下のカンファレンス、勉強会を行った。

毎日、朝夕の病棟カンファレンス／週1回の臨床カンファレンス、勉強会

月に1回の放射線科カンファレンス

月に1回の小児科臨床カンファレンス（柳澤正義先生）

院外講師を招いての講演会を行った。

④ 小児臨床研究の充実

臨床研究として、初期・後期研修医、スタッフ医師による学会発表、論文発表（詳細は業績集を参照）を行った。

⑤ 地域・行政との連携。地域・行政との連携により、院内診療のみならず、在宅医療・検診・健康講話などを通し、地域の保健・療育・教育活動に積極的に参加した。

保健所にて一般健診の委託

学校保健・健診の委託

ふれあいセンターにて発達相談の委託

在宅呼吸器患者の在宅訪問医療

救命救急士を対象とした小児救急の講義

⑥ 静岡県立こども病院、神奈川県立こども医療センターの2つの連携施設に研修医を派遣、より充実した研修。

安房地域医療センター、亀田ファミリークリニックとの連携。安房地域医療センターの小児科診療（外来）を充実。亀田ファミリークリニックとの連携を強化。

安房地域医療センターの木曜日の小児科午前外来診療を継続した。外来患者の紹介など亀田総合病院との連携もスムーズに行われた。入院患者の転院も数名ではあるが、連携のもと、スムーズに行われた。

富田医師は、3ヶ月間、神奈川県立こども医療センターの新生児科を研修した。村上医師は、3ヶ月間、静岡県立こども病院の集中治療科を研修した。

⑦ 女性医師へのサポート。子育て支援のため、診療・当直体制をフレキシブルに変更

濱田医師は、後期研修医1年目として診療に携わり、可能な限り、無理のない当直回数を維持した。

⑧ 発達障害や育児困難な症例の増加に対応可能となるように、外来診療を行う。

河村医師と岩間医師と河野医師の3人で、発達外来を行った。後期研修医やスタッフの一般外来に発達関連の新規患者が受診するケースも増加した。発達外来担当医師と患者との橋渡しの役割を後期研修医とスタッフが担った。しかし、発達外来の専門外来ワクの軽減には未だ到達できていない。

### 3. スタッフ

(常勤12名、後期研修医 5名 非常勤 8名) 2019. 4. 1-

(2010年より小児科内科プログラムが小児科所属に変更)

→ [亀田メディカルセンターホームページ スタッフ紹介へ](#)

非常勤医師

小児神経1名、小児腎臓1名、発達・心理1名、小児内分泌1名、小児救急1名

ジュニアレジデント 1-2名 配属 (1~2ヶ月間 ローテーション)

家庭医養成コースシニア 0-1名 配属 (2~3ヶ月間 ローテーション)

### 4. 診療内容 (2015. 4. 1-)

1) 外来診療：亀田クリニック (予約制)

	月	火	水	木	金	土
午前一般外来	2診	2診	2診	4診	2診	5診
午前専門外来	発達外来		発達外来 神経外来	アレルギー 発達外来	神経外来	神経外来 発達外来
午後一般外来	2診	2診	3診	2診	2診	3診
午後専門外来	NICU 外来 発達外来	内分泌外来 血液外来	心臓外来 腎臓外来 神経外来	発達外来 NICU 外来	発達外来	神経外来 発達外来
特殊外来	1歳検診	1ヶ月検診	予防接種		乳児検診	シナジス外来

外来患者数：約100名/日

夜間救急患者：平均14名、流行期40~50名

安房地域医療センター (予約制)

木曜日 (午前) 上原

金曜日 (午前・午後) 岩間

2) 入院診療

急性感染症などの一般小児科疾患をはじめ、小児科各専門領域の慢性疾患など多数。

一般小児科で必須の疾患のほとんどを診療している。

人工呼吸器管理などの集中治療を要する重症患者は年間約10名程度。

看護師も受持ち制をとり、患者・家族と密なコミュニケーションを図り、継続性のある看護を目指している。

## 5. 学術関係(2018. 4. -2019. 3.)

### 1) 原著論文

林 泰志(亀田メディカルセンター), 湯浅 正太, 美里 周吾, 戸田 壮一郎, 高梨 潤一

A longitudinal study of MRS metabolites in pediatric patients with encephalopathy. てんかん研究(0912-0890)36巻2号 Page513(2018. 09)

石川桂子, 伊東宏明, 河村誠次

川崎病免疫グロブリン大量療法不応予測高リスク群におけるステロイド投与層別化の試み. 小児科臨床 2019;72:313-318

### 2) 学会、研究会発表

## 6. 教育内容

主治医に若手スタッフないし後期・初期研修医でチームを組み入院診療に当たっている。初期研修医、家庭医も常時0-2名配属されチーム医療の一翼を担っている。また外来診療、救急診療にも後期研修1年目の夏から一人立ちをすべく、臨床教育を行っている。以下に具体的な内容を提示する。

- ・ 毎日、朝夕の病棟カンファレンス
- ・ 週2回の部長回診
- ・ 週1回の臨床カンファレンス、輪読会
- ・ 月に1回の放射線科カンファレンス、リハビリテーション科カンファレンス
- ・ 月に1回の小児科臨床カンファレンス (柳澤正義先生、恩賜財団母子愛育会 日本子ども家庭総合研究所 名誉所長、国立成育医療センター名誉総長)

## 7. その他

- ・ 保健所にて予防接種業務の委託
  - ・ 保健所にて一般健診・発達健診の委託
  - ・ 学校保健・健診の委託
  - ・ 附属看護専門学校・助産婦学校の講義
  - ・ 小児の健康についての市民フォーラム
  - ・ 救命救急士を対象とした小児救急の講義
- などを、定期的に行なった。

文責：河村誠次